

UNIT 6

EXERCISES

《解答》

- A (1) be dealt with (2) looked up to [thought highly of / highly thought of]
(3) cannot [can't] have made (4) got [were] caught [stuck] in
- B (1) have brought an umbrella with me
(2) has been put off because of
(3) must have been painted by someone
(4) is said that many treasures lie
(5) It is still being repaired
- C (1) need not [needn't] have hurried / did not [didn't] need to hurry
(2) needs repairing [fixing] / needs to be repaired [fixed]
(3) may [might] have met [seen] her somewhere
- D (1) I didn't go to [attend] the party. You must have mistaken [taken] me for someone else. /
～. You must have confused me with [and] someone else.
(2) This light suitcase sells [is selling] well to [among] foreign [overseas] tourists.
(3) The cause of the trouble is being investigated [looked into] now. /
The cause of the trouble is under investigation now. /
We are investigating [looking into] the cause of the trouble now.
(4) You should [ought to] have considered [thought about] the plan more carefully before
putting [you put] it into practice.

《和訳》

- A 空所を補って文を完成させなさい。
- B カッコ内の語句を使って文を完成させなさい。
- (1) 雨が降りそうだ。傘を持ってくるべきだった。
 - (2) 花見は悪天候のため延期された。
 - (3) この絵はすばらしい。だれか才能ある人によって描かれたに違いない。
 - (4) 山の中に多くの宝物が隠されていると言われている。
 - (5) クローバー通りは避けなさい。まだ補修工事中です。
- C 以下を英語で表現し、文を完成させなさい。
- D 以下を英語で表現しなさい。

《解説》

- A
- (1) 3. 未来表現の受動態
主語が The financial problem で、「対処されるだろう」という未来の受動態を表すので、〈will be + 過去分詞〉を用いる。「～に対処する」は deal with や handle で表すが、受動態に変更したときの空所の数から deal with を用いることがわかる。deal の語形変化は deal—dealt—dealt. in no time は「すぐに」という意味。

(2) 6. 群動詞の受動態

主語が Mayor Brown で、「尊敬されていた」という過去の受動態を表す。「尊敬する」は 1 語なら respect, honor, esteem などがあるが、ここでは空所の数から群動詞を用いる。3 語の群動詞には look up to, think highly of, think much of などがあるが、think much of は否定文で使うのが原則なので不適切。citizen は「市民」という意味。cf. the citizens of Tokyo 「東京都民」

(3) ● 〈cannot [can't] have+過去分詞〉

「～したはずがない」という過去のことに対する推量を表すので、〈cannot [can't] have+過去分詞〉を使う。「失敗する」は make a mistake で表し、× do a mistake でないことに注意。なお、AmE では、「～しなかったに違いない」を〈must not have+過去分詞〉で表すこともあるが、縮約形の〈mustn't have+過去分詞〉は通常使わないので不可。

(4) 7. 動作を表す受動態：〈動作：～される〉

「渋滞に巻き込まれる」は get caught in a traffic jam で表す。〈get+過去分詞〉で「～される」という動作を明確に表し、偶然起こったこと、予期せずに起こったことや自分で制御できないことについて用いられる。

B

(1) 2. 〈should have+過去分詞〉

1 文目が「雨が降りそうだ」という意味であること、語群に brought, umbrella があることから、「傘を持ってくるべきだった」という内容が推測できる。過去の行為に対する後悔を表す〈should have+過去分詞〉を用いる。

(2) 4. 完了形の受動態

語群後に bad weather とあること、語群に because, off, put があることから、「花見は悪天候のため延期された」という内容が推測できる。完了形の受動態を表す〈has been+過去分詞〉を用いる。put off は「～を延期する」、because of は「～の理由で」という意味。

(3) 1. 〈must have+過去分詞〉

1 文目が「この絵は素晴らしい」という意味であることと語群から、「才能ある人によって描かれたに違いない」という内容が推測できる。〈must have+過去分詞〉を用いる。また、主語が It (= This painting) で「描かれた」という受動態なので、must have been painted となる。talent は「(先天的な) 才能」という意味。なお、「テレビタレント」は TV performer [personality] などと表し、× TV talent は不可。

(4) 8. 状態を表す受動態：〈状態：～されている〉

文の主語 It と語群から、It is said that ... と続くと判断できる。真の主語は that 以下となる。〈lie+過去分詞〉で「～されている」という状態を表すことができるので、lie hidden で「隠されたまま横たわっている」→「隠されている」という意味を表す。

(5) 5. 進行形の受動態.

1 文目は「クローバー通りは避けなさい」という意味。2 文目はこの Clover Street を受けて It で始める。述部には現在進行形の受動態を表す〈is being+過去分詞〉を用いることがわかる。still は always などと同様に be 動詞の直後に置くのが原則である。

C

(1) ● 〈need not have+過去分詞〉

「～する必要はなかったのに(～した)」という過去の行為に対する後悔の気持ちを表すので、〈need not have+過去分詞〉を用いるとよい。もしくは need を動詞とすることもできる。「急ぐ」は hurry で表す。

(2) 9. 能動態で受動態を表す表現：〈必要：～される〉

通常「修理する」側は人であるが、ここでは主語に It (= This cleaning robot) という「修理される」側が置かれている。よって「掃除ロボットが修理されることが必要だ」という受動態の意味で解釈する。「修理する」は repair か fix を使う。〈need doing〉で「Sは～されることが必要」という受動態の意味を表すことができるので、下線部を needs repairing [fixing] とする。もしくは needs to be repaired [fixed] でも可。なお、mend は小さな穴・破れなどの簡単な修理で、*AmE*では主に布製品の修理に用いられるのでここでは不適切。

(3) ● 〈may have+過去分詞〉

「～したかもしれない」は〈may [might] have+過去分詞〉で表す。might のほうが may より低い可能性を表すが、ほぼ同じ意味で使われることが多い。

D

(1) 1. 〈must have+過去分詞〉

1文目は過去の動作の否定なので過去時制、2文目は「～したに違いない」という意味なので〈must have+過去分詞〉で表す。「AをBと間違える」は mistake [take] A for B もしくは confuse A with [and] B で表す。

(2) 9. 能動態で受動態を表す表現：〈動詞+副詞〉

商品の売れ行きを表す場合、商品を主語とし、sell を自動詞で用いて、副詞(句)を後に続ける。

「よく売れている」は sell well で表す。進行形を用いると、一時的によく売れていることを強調できる。「外国人旅行者に」は to foreign [overseas] tourists だが、「外国人旅行者の間で」と考えて to の代わりに among を用いてもよい。

(3) 5. 進行形の受動態

「不具合の原因」を主語とし、進行形を表す受動態〈be 動詞+being+過去分詞〉を用いるか、受動態を用いずに be under investigation 「調査中だ」を用いるとよい。もしくは We を主語に表すこともできる。「～を調査する」は investigate あるいは群動詞の look into で表す。now は is の後でも可。

(4) 2. 〈should have+過去分詞〉

まず「～すべきだったのに(～しなかった)」を表す〈should [ought to] have+過去分詞〉を用いて、「実行に移す前に」以外の文を作るとよい。「もっと慎重に」は比較級を用いる。「実行に移す前に」は before を前置詞あるいは節のどちらとして用いてもよい。

Let's Try!

《解答例》

- ① (1) When I was in junior high school, there was a girl I liked, but I couldn't ask her out on a date.
(2) I should have told her how I felt.
- ② When I was in junior high school, there was a girl I liked, but I couldn't ask her out on a

date. I should have told her how I felt. (30 words)

《和訳》

- ① ペアを組んで、質問について話し合いなさい。
 - (1) あなたは何か後悔していることがありますか.
 - (2) どうすべきだったと思いますか.
- ② 質問に 30 語程度で答えなさい.